

# その他の凶悪事件

教団は、様々な化学兵器(サリン, VX, 青酸ガス)や生物兵器(ボツリヌス菌<sup>たんそ</sup>, 炭疽菌)を使用するなどして、数々の凶悪事件を引き起こしました。

以下では、このうち、麻原が有罪判決を受けた13の事件(裁判の迅速化のため限定的に起訴したもの)について、その概要を説明します。

## 化学兵器を使用した事件

### 【サリン】

サリンは、有機リン系の化学物質であり、無色無臭で常温では液体であるが揮発性が高い。体内に吸収されると、呼吸筋に傷害を起こし、あるいは呼吸中枢を麻痺させるなどして死に至らしめる(平成16年2月27日 麻原彰晃こと松本智津夫の公判の判決文)。

#### 1 サリンプラント事件(平成5年11月頃~同6年12月下旬頃)

麻原は、サリンを散布させて不特定多数の者を殺害する目的で、平成5年11月頃から平成6年12月下旬頃までの間に、山梨県西八代郡上九一色村(当時)に所在していた教団施設「第7サティアン」内にサリンプラントをほぼ完成させ、原料をプラントに投入し、これを作動させてサリンの生成を企図。

#### 2 弁護士殺人未遂事件(平成6年5月9日)

麻原の指示を受けた幹部信徒らが、オウム真理教被害対策弁護団に所属し、教団信者に対するカウンセリング活動も行っていた弁護士が所有する自動車のフロントウインドーアンダーパネルの溝及びその付近にサリン溶液を滴下し、その後、同自動車を運転した弁護士にサリン中毒症の傷害。

#### 3 松本サリン事件(平成6年6月27日)

麻原の指示を受けた幹部信徒らが、長野県松本市北深志所在の駐車場において、サリン噴霧車に設置した加熱式噴霧装置を作動させてサリンを加熱し気化させた上、大型送風扇を用いてこれを周辺に散布。8人をサリン中毒で殺害、約140人(※)にサリン中毒症の傷害。

※ 刑事裁判記録に基づく被害者数

#### 4 地下鉄サリン事件（平成7年3月20日）

麻原の指示を受けた幹部信徒らが、サリンを散布させて不特定多数の乗客らを殺害する目的で、東京都千代田区の営団地下鉄霞ヶ関駅に停車する日比谷線、千代田線及び丸ノ内線の各車両内において、先端をとがらせた傘でサリン入りビニール袋を突き刺し、サリンを流出気化させて散布させ、乗客ら13人をサリン中毒により殺害、5,800人以上（※）にサリン中毒症の傷害。

※ オウム真理教犯罪被害者等を救済するための給付金の支給に関する法律に基づき給付金の支給を受けた被害者数

参照:[「地下鉄サリン事件」](#)

### 【 VX 】

VXは、毒性がサリンの100倍とも1,000倍とも言われる神経剤。体内に吸収されると、サリンと同様、縮瞳（瞳孔の収縮）、けいれん、呼吸困難などの症状を示す（平成16年2月27日 麻原彰晃こと松本智津夫の公判の判決文）。

#### 5 脱会支援者VX殺人未遂事件（平成6年12月2日）

麻原の指示を受けた幹部信徒らが、山梨県西八代郡上九一色村（当時）に所在していた教団施設を抜け出した出家信徒をかぐまい、同信徒に弁護士を紹介するなどした男性を殺害しようと、東京都中野区の路上において、注射器に入れた猛毒の化学兵器・VXを同男性の後頭部付近に掛け、VX中毒症の傷害。

#### 6 信徒VX殺人事件（平成6年12月12日）

麻原が、分派を作ろうとしているとの情報があった在家信徒の身辺調査をさせたところ、同人と関係のある不審人物として会社員の名前が挙がったため、その会社員をスパイと決め付け、麻原の指示を受けた幹部信徒らが、大阪市淀川区の路上において、注射器に入れた猛毒の化学兵器・VXを同会社員の後頭部付近に掛け、VX中毒により殺害。

#### 7 被害者の会会長VX殺人未遂事件（平成7年1月4日）

麻原の指示を受けた幹部信徒らが、東京都港区の路上において、注射器に入れた猛毒の化学兵器・VXを、オウム信者の脱会を促す活動を行っていたオウム真理教被害者の会会長の後

頭部付近に掛け、VX中毒症の傷害。

## 上記以外の事件

### 【 絞殺等 】

#### 8 信徒殺人事件（平成元年2月上旬）

麻原の指示を受けた幹部信徒らが、静岡県富士宮市所在の教団施設「富士山総本部」の独房修行用のコンテナ内において、教団脱退の意思を有していた信徒の首にロープを巻いて絞め付けるなどして殺害。

#### 9 弁護士一家殺人事件（平成元年11月4日）

麻原の指示を受けた幹部信徒らが、教団に対して批判的な活動を行っていた弁護士、妻及び子の自宅に侵入し、首を絞め付けるなどして窒息させて殺害。

#### 10 信徒リンチ殺人事件（平成6年1月30日）

難病にかかり教団による治療を受けていた女性信徒と親しくしていた男性信徒が、女性信徒の息子とともに教団施設に侵入。女性信徒を連れ出そうとしたところを教団信徒に発見され、捕まえられた。

麻原は、女性信徒の息子に対して男性信徒の殺害を指示。その周囲にいた幹部信徒らが男性信徒の体を押さえ付け、女性信徒の息子が男性信徒の首をロープで絞め、男性信徒を窒息させて殺害。その後、男性信徒の死体をマイクロ波加熱装置とドラム缶などを組み合わせた焼却装置（マイクロ波焼却装置）の中に入れ、これにマイクロ波を照射して加熱焼却し、男性信徒の死体を損壊。

#### 11 信徒リンチ殺人事件（平成6年7月10日）

麻原が信徒にスパイ容疑をかけ、幹部信徒らに拷問を加えさせたが、拷問を加えてしまった以上このまま生かしておくとは後々教団の発展にとって障害になるおそれがあると考え、信徒を殺害することを企て、山梨県西八代郡上九一色村（当時）に所在していた教団施設において、首をロープで巻いて絞め付けて殺害。その後、死体をマイクロ波加熱装置とドラム缶などを組み合わせた焼却装置（マイクロ波焼却装置）の中に入れ、これにマイクロ波を照射して加熱焼却し、同信徒の死体を損壊。

## 1 2 公証役場事務長逮捕監禁致死事件

(平成7年2月下旬～3月上旬)

全財産を教団に取り上げられることを危惧するなどして身を隠した信徒の所在を聞き出すため、麻原の指示を受けた幹部信徒らが、東京都品川区の路上において、同信徒の実兄である公証役場事務長をワゴン車内に押し込んで、山梨県西八代郡上九一色村(当時)に所在していた教団施設に連れ込み(2月28日)、大量に投与した全身麻酔薬の副作用(呼吸抑制、循環抑制など)に起因する心不全により殺害(3月1日)。その後、死体をマイクロ波加熱装置とドラム缶などを組み合わせた焼却装置(マイクロ波焼却装置)の中に入れ、これにマイクロ波を照射して加熱焼却し、同事務長の死体を損壊(3月1～4日)。

### 【 武器製造 】

## 1 3 小銃製造等事件 (平成6年6月頃～同7年1月)

麻原の指示を受け、ロシア製自動小銃「AK-74」を模倣した自動小銃1,000丁を製造しようと企て、平成6年6月下旬頃から、山梨県西八代郡上九一色村(当時)に所在していた教団施設等において、自動小銃の部品多数を製造し、平成7年1月1日までの間に、山梨県南巨摩郡富沢町所在の教団施設において、小銃等を製造。



教団が旧ソ連製自動小銃「AK-74」をモデルに密造した小銃(時事)